

令和7年度

総会議案

と き 令和7年4月21日(月) 13:30～

ところ 札幌東急REIホテル 2階 マディソン

総会次第

1. 開会の辞
2. 支部長挨拶
3. 議案
 - 1) 令和6年度事業報告…………… 1
 - 2) 令和6年度決算…………… 6
 - 3) 会計及び業務の監査報告…………… 10
 - 4) 令和7年度北海道支部役員選任…………… 11
4. 報告
 - 1) 令和7年度事業計画…………… 13
 - 2) 令和7年度予算…………… 14
 - 3) 北海道支部設立70周年記念事業積立資金規程の一部改正…………… 15
 - 4) 令和6年度北海道支部賞及び支部賞(学生部門)選考経過…………… 16
5. 表彰
 - 1) 令和6年度北海道支部賞及び支部賞(学生部門)…………… 16
 - 2) 令和6年度地盤工学会永年継続会員…………… 19
 - 3) 令和6年度地盤工学会永年継続特別会員…………… 19
6. 新・旧支部長挨拶
7. 閉会の辞

資料

1) 学会活動支援金(支部協賛金)寄附者	20	6) 歴代支部長・副支部長・幹事長・副幹事長名簿	29
2) 北海道支部特別会員名簿	21	7) 令和6年度北海道支部役員名簿	32
3) 北海道支部規程	22	8) 令和6年度北海道支部委員会名簿	34
4) 北海道支部賞授与規定・同選考要領	25	9) 本部役員・委員等(支部推薦・選出)	35
5) 北海道支部協賛金制度	28		

公益
社団
法人

地盤工学会北海道支部

〒060-0061 札幌市中央区南1条西2丁目南一条Kビル TEL・FAX (011)251-7038

令和6年度事業実施報告

1 会議

(1) 令和6年度支部総会 (6.4.19 ホテル札幌ガーデンパレス)

- 1) 議案：令和5年度事業報告
- 2) 議案：令和5年度決算報告
- 3) 議案：会計及び業務の監査報告
- 4) 議案：令和6年度北海道支部役員選任
- 5) 議案：北海道支部規程の一部改正
- 6) 報告：令和6年度事業計画
- 7) 報告：令和6年度予算
- 8) 報告：令和5年度地盤工学会北海道支部賞及び支部賞(学生部門)選考経過
- 9) 報告：本部表彰 地盤工学会永年継続会員及び永年継続特別会員
- 10) 新・旧支部長挨拶

(2) 商議員会

第1回 (6.4.15 オンライン開催)

- 1) 議案：令和5年度事業報告
- 2) 議案：令和5年度決算報告
- 3) 議案：会計及び業務の監査報告
- 4) 議案：令和6年度北海道支部役員の改選
- 5) 報告：令和6年度事業計画
- 6) 報告：令和6年度予算

第2回 (7.2.25 オンライン開催)

- 1) 議案：令和7年度事業計画
- 2) 議案：令和7年度予算
- 3) 議案：支部創立70周年記念事業について
- 4) 議案：支部将来構想検討委員会について
- 5) 報告：令和6年度事業実施状況
- 6) 報告：令和6年度決算見込み
- 7) 報告：令和6年度地盤工学会北海道支部賞及び支部賞(学生部門)選考経過
- 8) 報告：第59回地盤工学研究発表会(旭川大会)について

(メール審議)

第1回 支部役員の選任について (6.8.13)

第2回 支部役員の選任について (6.9.17)

第3回 地盤工学会北海道支部設立70周年記念事業積立資金規程の一部改正について (7.2.3)

(3) 令和5年度会計監査 (6.4.9 支部事務局)

(4) 正副支部長会議

第1回 (6.10.28 支部事務局)

- 1) 学会・支部の財政状況について
- 2) 今年度の事業実施状況について
- 3) 令和7年度事業計画及び予算について

- 4) 支部創立 70 周年記念事業について
- 5) その他
- (5) 全体幹事会
 - 第 1 回 (6. 4. 19 ホテル札幌ガーデンパレス)
 - 1) 令和 6 年度の役割分担について
 - 2) 令和 6 年度事業方針、事業計画について
 - 3) その他
- (6) 企画担当幹事会
 - 第 1 回 (6. 7. 8 オンライン開催)
 - 1) 今年度事業の実施計画について
 - 2) 新規事業の検討
 - 3) その他他、次年度事業計画及び予算案の確認等、メールによる会議を適宜開催
- (7) 事業別担当幹事会
 - メールまたはオンラインによる事業別担当幹事会を適宜開催
- (8) 支部表彰委員会
 - 第 1 回 (6. 8. 22 オンライン開催)
 - 1) 委員会委員長及び副委員長の選出について
 - 2) 令和 6 年度地盤工学会賞候補の推薦について
 - 3) 令和 6 年度地盤工学貢献賞候補の推薦について
 - 4) 令和 6 年度地盤工学会出版賞候補の推薦について
 - 5) 事業企画賞候補案の選出について
 - 第 2 回 (5. 12. 18 オンライン開催)
 - 1) 令和 6 年度名誉会員推挙候補者の推薦について
 - 2) 令和 6 年度支部賞選考の確認
 - 第 3 回 (7. 2. 12 オンライン開催)
 - 1) 令和 6 年度支部賞及び支部賞(学生部門)の選考について他、メールによる会議を適宜開催
- (9) 積雪寒冷地における土構造物の設計と施工に関する研究委員会
 - 第 5 回(※通番) (6. 5. 20 (株)ドーコン)
 - 1) 4 件の話題提供および議論
 - 2) 今後の活動方針について
 - 3) その他
 - 第 6 回 (6. 8. 23 (株)ドーコン)
 - 1) 4 件の話題提供および議論
 - 2) CPD 付与について
 - 3) その他
 - 第 7 回 (6. 10. 30 北見工業大学 A204講義室)
 - 1) 5 件の話題提供および議論
 - 2) 今後の委員会 (WG 活動) の進め方について
 - 3) その他

第8回 (7.3.19 エア・ウォーターの森)

- 1) 各WGにおけるチーフとサブチーフの決定および検討内容について
- 2) 成果内容の議論
- 3) その他

会議計：通常総会1回、商議員会5回(メール審議含む)、会計監査1回、正副支部長会議1回、全体幹事会1回、企画担当幹事会1回(メール会議適宜開催)、事業別幹事会(メール会議適宜開催)、支部表彰委員会3回、支部研究委員会4回

2 事業

(1) 技術報告会

開催日：令和7年1月24日(金)～25日(土)

場 所：国立大学法人室蘭工業大学

主 催：地盤工学会北海道支部

後 援：国立大学法人室蘭工業大学

投稿数：36件

参加人数：2日間延べ176名

(2) 特別講演会(技術報告会同時開催)

開催日：令和7年1月24日(金)

場 所：国立大学法人室蘭工業大学

主 催：地盤工学会北海道支部

参加人数：92名

演題・講師：「泥炭地盤対策技術の歴史を振り返って」 林 宏親 ((国研)寒地土木研究所)

(3) 講習会

「北海道の火山灰質土に関する講習会」

開催日：令和7年2月14日(金)

場 所：国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所

主 催：地盤工学会北海道支部

後 援：北海道土木技術会土質基礎研究委員会、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所

参加人数：79名

演題・講師：

「概要説明と最近の被災事例」	川村 志麻 (室蘭工業大学)
「北海道の火山灰質土の分布と物理的性質」	松本 和正 (北海道土質コンサルタント(株))
「火山灰質粗粒土の工学的性質」	八木 一善 (岩田地崎建設(株))
「火山灰質細粒土の工学的性質」	川端 伸一郎 (北海道科学大学)
「火山灰質土の設計と施工1－火山灰土の土工－」	佐藤 厚子 ((国研)寒地土木研究所)
「火山灰質土の設計と施工2－高速道路の土工－」	山内 智(株)初スコ・エンジニアリング 北海道
「火山灰質土の設計と施工3－杭基礎の支持力－」	江川 拓也 ((国研)寒地土木研究所)
「全講師による質疑」	

(4) セミナー「土を考える」

支部主催 第1回

開催日：令和6年11月29日(金)

場 所：国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所

参加人数：26名

テーマ：「地盤工学に関する最近の話題」

演題・講師：

「凍上性岩盤斜面の動態観測と対策工の検討」 御厩敷 公平 ((国研)寒地土木研究所)

「盛土の締固めと品質管理」 山木 正彦 ((国研)寒地土木研究所)

「全講師による質疑」

支部主催 第2回

開催日：令和7年3月14日(金)

場 所：かでの2.7

参加人数：30名

テーマ：「土の凍結・凍上に関する疑問に答えます！
～凍上メカニズムから設計・対策工まで～」

講師： 小野 丘 (北海学園大学)

(5) 若手勉強会

支部主催 第1回

開催日：令和6年12月4日(水)

場 所：TKP札幌カンファレンスセンター北3条

参加人数：31名

テーマ：「斜面防災 (せん断・斜面安定)」

演題・講師：

講義「せん断」

加藤 晃 (苫小牧工業高等専門学校)

講義「斜面の安定」

加藤 晃 (苫小牧工業高等専門学校)

演習「斜面防災」

宮田 善郁 (株ドーコン)

磯部 公一 (北海道大学)

全講師による意見交換会

支部主催 第2回

開催日：令和7年1月28日(火)

場 所：TKP札幌カンファレンスセンター北3条

参加人数：45名

テーマ：「構造物基礎の設計 (地盤の支持力)」

演題・講師：

講義「地盤の支持力・直接基礎」

永井 宏 (室蘭工業大学)

講義「地盤の支持力・杭基礎」

永井 宏 (室蘭工業大学)

演習「直接基礎・杭基礎の設計」

江川 拓也 ((国研)寒地土木研究所)

京田 英宏 (北武コンサルタント(株))

全講師による質疑応答・意見交換会

(6) 支部刊行物

1) 技術報告集 第65号

発刊：令和7年1月 Web上で公開

(7) 広報活動

- 1) ホームページの管理・更新
- 2) SNS (Facebook) を使った広報, 行事参加報告
- 3) 技術報告集の広報用謹呈作業 (広報幹事を通じて, 開発局, 北海道等へ謹呈)
技術報告会への協賛社一覧も合わせて送付し, 北海道における地盤工学の
アップグレードにご理解のある企業をアピール
- 4) 技術報告集バックナンバーの Web 公表

(8) 後援等事業

- ・後援: 「基礎構造に関する講習会 渡河橋梁の流失防止に向けて」
主催: 北海道土木技術会土質基礎研究委員会
開催日: 令和6年11月8日(金)
場所: 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
- ・後援: 「土木の日パネル展 2024」
主催: 北海道土木技術会
開催日: 令和6年11月17日(日)~18日(月)
場所: 札幌駅前通地下歩行空間 北大通交差点広場(東)

事業計: 技術報告会 1 回、特別講演会 1 回、講習会 1 回、セミナー 2 回、若手勉強会 2 回、支部
刊行物 1 種、広報活動 1 式、後援事業 2 回

令和6年度貸借対照表
(令和7年3月31日現在)

北海道支部

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	756,878	645,461	111,417
未収金	40,000	48,800	△ 8,800
前払金	0	0	0
仮払金	0	0	0
立替金	0	0	0
預け金(本部)	14,053,484	12,895,237	1,158,247
預け金(本部 特定資産)	3,000,000	3,000,000	0
流動資産合計	17,850,362	16,589,498	1,260,864
2. 固定資産			
(1) 特定資産	0	0	0
(2) その他の固定資産	115,200	122,340	△ 7,140
保証金	115,200	122,340	△ 7,140
固定資産合計	115,200	122,340	△ 7,140
資産合計	17,965,562	16,711,838	1,253,724
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	6,070	0	6,070
前受金	0	0	0
預り金	0	0	0
仮受金	0	0	0
流動負債合計	6,070	0	6,070
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	6,070	0	6,070
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	17,959,492	16,711,838	1,247,654
正味財産合計	17,959,492	16,711,838	1,247,654
負債及び正味財産合計	17,965,562	16,711,838	1,253,724

令和6年度 正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

北海道支部

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	642,000	796,000	△ 154,000
調査研究・基準事業収益	213,000	283,000	△ 70,000
技術報告会収益	213,000	283,000	△ 70,000
技術推進事業収益	429,000	513,000	△ 84,000
講習会収益	322,000	427,000	△ 105,000
地盤工学セミナー収益	60,000	86,000	△ 26,000
若手勉強会	47,000	0	47,000
受取寄付金	760,000	780,000	△ 20,000
雑収益	320,089	344,590	△ 24,501
支部活動費	4,638,300	3,320,000	1,318,300
経常収益計	6,360,389	5,240,590	1,119,799
(2) 経常費用			
事業費	5,112,735	5,016,693	96,042
会議費	47,010	0	47,010
旅費交通費	90,979	33,131	57,848
通信運搬費	39,074	42,316	△ 3,242
消耗什器備品費	3,211	17,149	△ 13,938
印刷製本費	335,421	150,498	184,923
賃借料	79,141	74,941	4,200
会場使用料	327,680	174,170	153,510
保険料	0	1,110	△ 1,110
諸謝金	295,159	105,999	189,160
委託費	3,765,384	4,310,202	△ 544,818
支払手数料	50,899	38,908	11,991
雑費	78,777	68,269	10,508
経常費用計	5,112,735	5,016,693	96,042
評価損益等調整前当期経常増減額	1,247,654	223,897	1,023,757
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,247,654	223,897	1,023,757
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,247,654	223,897	1,023,757
一般正味財産期首残高	16,711,838	16,487,941	223,897
一般正味財産期末残高	17,959,492	16,711,838	1,247,654
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	17,959,492	16,711,838	1,247,654

令和6年度 事業別正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

公益社団法人地盤工学会北海道支部
公益目的事業会計

※共通事業費を他事業へ分配前

※大会選付金含む

単位：円

科目	令和6年度決算 (a)	令和6年度予算 (b)	差異 (a)-(b)	技術報告会 【公2】	研究委員会 【公2】	講習会 【公3】	セミナー 【公3】	若手勉強会 【公3】	表彰関連 【公4】	北海道支部共通 【共通】
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
事業収益	642,000	738,000	△ 96,000	213,000	0	322,000	60,000	47,000	0	0
調査研究基準事業収益	213,000	240,000	△ 27,000	213,000	0	0	0	0	0	0
技術報告会収益	213,000	240,000	△ 27,000	213,000	0	0	0	0	0	0
技術推進事業	429,000	498,000	△ 69,000	0	0	322,000	60,000	47,000	0	0
講習会収益	322,000	400,000	△ 78,000	0	0	322,000	0	0	0	0
セミナー・勉強会収益	107,000	98,000	9,000	0	0	0	60,000	47,000	0	0
受取補助金	0	110,000	△ 110,000	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金	0	110,000	△ 110,000	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	760,000	750,000	10,000	0	0	0	0	0	0	760,000
受取寄付金	760,000	750,000	10,000	0	0	0	0	0	0	760,000
雑収益	320,089	210,000	110,089	0	0	0	0	0	0	320,089
雑収益	320,089	210,000	110,089	0	0	0	0	0	0	320,089
支部活動費	4,638,300	3,290,000	1,348,300	1,268,300	0	0	0	0	0	3,370,000
経常収益計	6,360,389	5,098,000	1,262,389	1,481,300	0	322,000	60,000	47,000	0	4,450,089
(2) 経常費用										
事業費	5,112,735	5,098,000	14,735	104,820	5,280	300,557	90,390	394,583	73,704	4,143,401
会議費	47,010	0	47,010	0	0	700	0	46,310	0	0
旅費交通費	90,979	141,000	△ 50,021	33,520	0	14,120	420	16,789	0	26,130
通信運搬費	39,074	79,000	△ 39,926	2,200	0	0	0	0	550	36,324
消耗品費	3,211	15,000	△ 11,789	0	0	0	0	0	0	3,211
印刷製本費	335,421	114,000	221,421	0	0	219,732	18,000	35,000	33,154	29,535
賃借料	79,141	75,000	4,141	0	0	0	0	0	0	79,141
会場使用料	327,680	437,000	△ 109,320	60,100	5,280	4,900	23,900	159,500	0	74,000
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	295,159	151,000	144,159	9,000	0	61,105	48,070	136,984	40,000	0
委託費	3,765,384	3,975,000	△ 209,616	0	0	0	0	0	0	3,765,384
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	50,899	55,000	△ 4,101	0	0	0	0	0	0	50,899
雑費	78,777	56,000	22,777	0	0	0	0	0	0	78,777
経常費用計	5,112,735	5,098,000	14,735	104,820	5,280	300,557	90,390	394,583	73,704	4,143,401
当期経常増減額	1,247,654	0	1,247,654	1,376,480	△ 5,280	21,443	△ 30,390	△ 347,583	△ 73,704	306,688
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,247,654	0	1,247,654	1,376,480	△ 5,280	21,443	△ 30,390	△ 347,583	△ 73,704	306,688
一般正味財産期首残高	16,711,838	0	16,711,838	1,681,329	△ 23,190	976,209	△ 8,197	0	△ 20,063	14,105,750
一般正味財産期末残高	17,959,492	0	17,959,492	3,057,809	△ 28,470	997,652	△ 38,587	△ 347,583	△ 93,767	14,412,438
II 指定正味財産増減の部										
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	17,959,492	0	17,959,492	3,057,809	△ 28,470	997,652	△ 38,587	△ 347,583	△ 93,767	14,412,438

「経常収益【支部活動費】について」
「本部交付金」は、内閣府の指導により令和3年度までで廃止となり、各支部は、必要な活動費を本部へ申請する方式へ変更となりました。そのため今後の予算書式は、本部からの活動費を計上せず、費用の不足額が表されたものとなります。本表では給付される活動費を【支部活動費】として従来通り収益欄に計上し、収支のバランスが分かりやすいようにしております。

令和6年度財産目録

令和7年3月31日 現在

北海道支部

単位：円

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
[資産の部]			
I 流動資産			
1 現金預金			
1) 現金	手元保管		0
2) 振替貯金	小樽貯金事務センター	運転資金として	175,729
3) 普通預金	北海道銀行本店営業部	運転資金として	581,149
2 未収金			
	令和6年度分	雑収益に関する未収金	40,000
3 預け金			
1) 本部	本部保管	本部預り支部運転資金	14,053,484
2) 特定資産	本部保管	本部預り支部70周年記念事業に備えたもの	3,000,000
流動資産合計			17,850,362
II 固定資産			
1 特定資産			
2 その他の固定資産			
1) 保証金	鹿島東京開発㈱	公益目的事業の用に供している	115,200
固定資産合計			115,200
資 産 合 計			17,965,562
[負債の部]			
I 流動負債			
2 未払金			
	令和6年度分	技術推進事業に関する未払金	6,070
流動負債合計			6,070
II 固定負債			
固定負債合計			0
負債合計額			6,070
正味財産			<u>17,959,492</u>

令和7年4月8日

公益社団法人地盤工学会
北海道支部長 石川 達也 様

公益社団法人地盤工学会北海道支部

支部監事 佐藤厚子

支部監事 白旗秀紀

監 査 報 告 書

地盤工学会北海道支部の令和6年4月1日から令和7年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

監査の方法

- 1 会計監査について、決算書の報告を受け、帳簿並びに関係書類の閲覧など、必要な監査手続きを実施した。
- 2 業務監査について、商議員会及びその他の会議に出席し、役員からの事業の報告を聴取し、関係資料の閲覧など、必要な監査手続きを実施した。

監査の結果

- 1 収支決算書、貸借対照表は会計帳簿の金額と一致し、支部の収支状況及び財産状態を正しく示していると認める。
- 2 事業報告の内容は適正であると認める。

令和7年度地盤工学会北海道支部役員

(支部長・副支部長・商議員・監事) ※・は新選出者

支部長	・奥村 一正	鹿島建設(株)執行役員北海道支店長
副支部長	左近 利秋	(株)ドーコン環境事業本部地質部次長
副支部長	・上村 明弘	北海道建設部土木局長
商議員	長澤 正明	清水建設(株)北海道支店土木技術部部长
〃	河村 成範	大成建設(株)札幌支店土木部安全環境推進室長
〃	・西川 篤哉	(株)安藤・間札幌支店副支店長兼土木部長
〃	・中岡 良文	西松建設(株)札幌支店土木工事部部长
〃	北見 実敏	伊藤組土建(株)土木本部 参事 技術部長
〃	八木 一善	岩田地崎建設(株)技術部担当部長
〃	・飛弾野大介	荒井建設株式会社工務部課長
〃	吉田 考一	北電総合設計(株)土木部土木部長
〃	市川 克己	北日本港湾コンサルタント(株)第2技術部部长
〃	工藤 康雅	北海道土質コンサルタント(株)取締役統括技師長
〃	松本 博志	トキワ地研(株)技術本部調査計画次長
〃	武田 宣孝	北海道電力(株) 土木部電源開発グループ 兼土木エンジニアリンググループグループリーダー
〃	海原 卓也	北海道旅客鉄道(株)鉄道事業本部工務部副部長(兼)工事課長
〃	木村 泰	東日本高速道路(株)北海道支社技術部部长
〃	廣瀬 亘	北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所地域地質部地質環境グループ研究主幹
〃	・石川 達也	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門教授
〃	渡部 要一	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門教授
〃	・濱本昌一郎	北海道大学大学院農学研究院教授
〃	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域教授
〃	山下 聡	北見工業大学工学部社会環境系教授
〃	宗岡 寿美	帯広畜産大学環境農学研究部門教授
〃	小野 丘	北海学園大学工学部社会環境工学科教授
〃	川端伸一郎	北海道科学大学工学部都市環境学科教授
〃	・武井 正明	北海道開発局建設部河川工事課長
〃	中島 州一	北海道開発局建設部道路建設課長
〃	星 道太	北海道開発局港湾空港部港湾建設課長
〃	・岡本 裕也	北海道開発局農業水産部農業設計課長
〃	木下 堅吾	北海道開発局営繕部営繕整備課長
〃	・橋本 聖	土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム主任研究員
〃	・吉田 敏	北海道建設部土木局河川砂防課砂防災害担当課長
〃	・桃井 謙爾	北海道農政部農村振興局事業調整課技術管理担当課長
〃	・奥原 裕幸	札幌市建設局土木部道路工事担当部長
〃	都築 一雪	札幌市都市局建築部長
〃	・秋山 啓	札幌市下水道河川局事業推進部管路担当部長
〃	・磯谷 篤実	鉄道建設・運輸施設整備支援機構北海道新幹線建設局技術管理部長

支部監事	白旗 秀紀	(株)大林組札幌支店土木工事部部長
〃	・武藤 秀樹	土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム総括主任研究員
(幹事長・副幹事長・幹事)		※・は新選出者
幹事長	・村木 俊介	鹿島建設(株)北海道支店土木部プロジェクト推進部長
副幹事長	・山木 正彦	土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム上席研究員
幹事	・中村 元郎	鹿島建設(株)北海道支店土木部プロジェクト推進グループ
〃	塩見 武	(株)大林組札幌支店営業第二部
〃	石橋 正弘	清水建設(株)北海道支店営業部
〃	大田 佳紀	大成建設(株)札幌支店土木部技術室
〃	吉村 浩	五洋建設(株)札幌支店
〃	橋本 和明	日本工営(株)札幌支店技術第二部
〃	海部 友和	(株)構研エンジニアリング地質部
〃	小林 修司	(株)ドーコン環境事業本部地質部
〃	宮田 善郁	(株)ドーコン交通事業本部防災保全部
〃	本多 俊司	(株)北海工営社
〃	太田 佳之	北海道土質コンサルタント(株)技術部
〃	藤崎 浩孝	(株)ズコーシャ技術部
〃	大熊 浩明	(株)開発工営社共通事業本部地質部
〃	京田 英宏	北武コンサルタント(株)構造部
〃	服部 直	北海道電力(株)土木部地盤・津波グループ
〃	渡辺 一功	北海道旅客鉄道(株)鉄道事業本部工務部工事課
〃	坂田 史典	東日本高速道路(株)北海道支社技術部技術企画課
〃	江川 拓也	土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム
〃	御厩敷公平	土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム
〃	西村 聡	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門
〃	・磯部 公一	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門
〃	横浜 勝司	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門
〃	福田 文彦	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門
〃	永井 宏	室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域
〃	中村 大	北見工業大学工学部社会環境系
〃	松田 圭大	北海道科学大学工学部都市環境学科
〃	所 哲也	北海学園大学工学部社会環境工学科准教授
〃	加藤 晃	苫小牧工業高等専門学校創造工学科
〃	・遠藤 徹	北海道開発局建設部道路建設課
〃	・酒谷 賢治	北海道建設部土木局河川砂防課

令和7年度事業方針・事業計画

◎事業方針

恒例行事の開催方法は、対面形式かハイブリッドで計画する。役員会は基本、オンラインを活用する。令和7年度は支部創立70周年にあたるため、記念事業の計画を行う。

1 総会、役員会等

- ① 総会 開催日時：令和7年4月21日(月)
- ② 商議員会 2回程度 (その他適宜メール審議実施)
- ③ 幹事会等 10回程度 (全体幹事会、企画担当幹事会、事業別幹事会を適宜開催)

2 委員会の活動

- ① 支部表彰委員会
- ② 地盤災害緊急対応委員会
- ③ 積雪寒冷地における土構造物の設計と施工に関する研究委員会
- ④ 支部将来構想検討委員会
- ⑤ 支部創立70周年記念事業実行委員会

3 研究発表会、シンポジウム、報告会等

- ① 技術報告会 札幌市 2日間 対面開催 1月を予定

4 講演会、講習会等

- ① 講演会 本部会員支部地方公演会 札幌市 対面開催 8～9月を予定
- ② 講習会 支部主催講習会 札幌市 対面開催(状況に応じてオンライン・ハイブリッド形式) 11～12月を予定
- ③ セミナー 札幌市他 3回程度 6,9,11月を予定
- ④ 若手勉強会 札幌市 2回 詳細未定

5 広報活動

- ① ホームページの管理
- ② SNS (Facebook) を使った広報, 行事参加報告
- ③ 技術報告集の広報用謹呈作業 (広報幹事を通じて, 開発局, 北海道等へ謹呈)
技術報告会への協賛社一覧も合わせて送付し、北海道における地盤工学のアップグレードにご理解のある企業をアピール
- ④ 技術報告集バックナンバーのWeb公表

6 新刊発行予定

- ① 技術報告集第66号(Web公表)

令和7年度 正味財産増減予算書

令和 7年 4月 1日から令和 8年 3月31日まで

公益社団法人地盤工学会北海道支部

公益目的事業会計

※共通事業費を他事業へ分配後

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計						法人会計	合計
	公1	公2	公3	公4	共通	小計		
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
事業収益	0	230,000	455,000	0	0	685,000	0	685,000
調査研究・基準事業収益	0	230,000	0	0	0	230,000	0	230,000
技術推進事業収益	0	0	455,000	0	0	455,000	0	455,000
受取寄付金計	0	312,000	234,000	234,000	0	780,000	0	780,000
受取寄付金	0	312,000	234,000	234,000	0	780,000	0	780,000
雑収益計	0	124,000	93,000	93,000	0	310,000	0	310,000
雑収益	0	124,000	93,000	93,000	0	310,000	0	310,000
経常収益計	0	666,000	782,000	327,000	0	1,775,000	0	1,775,000
(2) 経常費用								
事業費	0	2,220,400	1,909,800	1,364,800	0	5,495,000	0	5,495,000
会議費	0	12,000	9,000	9,000	0	30,000	0	30,000
旅費交通費	0	95,400	77,800	7,800	0	181,000	0	181,000
通信運搬費	0	35,000	15,000	20,000	0	70,000	0	70,000
消耗什器備品費	0	4,000	3,000	5,000	0	12,000	0	12,000
印刷製本費	0	20,000	56,000	65,000	0	141,000	0	141,000
賃借料	0	28,000	21,000	21,000	0	70,000	0	70,000
会場使用料	0	474,000	453,000	48,000	0	975,000	0	975,000
諸謝金	0	20,000	126,000	40,000	0	186,000	0	186,000
委託費	0	1,496,000	1,122,000	1,122,000	0	3,740,000	0	3,740,000
支払手数料	0	16,000	12,000	12,000	0	40,000	0	40,000
雑費	0	20,000	15,000	15,000	0	50,000	0	50,000
経常費用計	0	2,220,400	1,909,800	1,364,800	0	5,495,000	0	5,495,000
評価損益等調整前当期経常増減額	0	▲ 1,554,400	▲ 1,127,800	▲ 1,037,800	0	▲ 3,720,000	0	▲ 3,720,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	0	▲ 1,554,400	▲ 1,127,800	▲ 1,037,800	0	▲ 3,720,000	0	▲ 3,720,000
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	0	▲ 1,554,400	▲ 1,127,800	▲ 1,037,800	0	▲ 3,720,000	0	▲ 3,720,000
当期一般正味財産増減額	0	▲ 1,554,400	▲ 1,127,800	▲ 1,037,800	0	▲ 3,720,000	0	▲ 3,720,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	▲ 1,554,400	▲ 1,127,800	▲ 1,037,800	0	▲ 3,720,000	0	▲ 3,720,000
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	▲ 1,554,400	▲ 1,127,800	▲ 1,037,800	0	▲ 3,720,000	0	▲ 3,720,000

地盤工学会北海道支部設立70周年記念事業積立資金規程

平成28年3月15日理事会制定
 平成31年4月22日 一部改正
令和7年2月21日 一部改正

(総則)

第1条 この規程は、公益社団法人地盤工学会定款第42条第3項の規定に基づき、北海道支部設立70周年記念事業積立資金（以下「資金」という）の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(積立資金の目的)

第2条 この資金は、北海道支部が支部設立70周年を記念して、会員および地盤工学に関わる技術者の研究協力・技術交流を促進し、もって地盤工学の振興と社会の発展に寄与するための事業費に充てる。

(事業)

第3条 次の事業を行う。

- (1) 記念誌の発行
- (2) 記念講演会・祝賀会
- (3) 支部功労者の顕彰
- (4) 70周年記念に係わるその他の事業

(積立資金)

第4条 この資金は、理事会承認を得た個人または法人からの寄附金および支部会計からの繰入金をもって積み立てる。

2. 寄附は、寄附者の意思を尊重したうえで北海道支部商議員会の承認を経て、この資金に組み入れるものとする。
3. この資金の積立限度額は、300万円とする。

(運営)

第5条 この資金の運用について北海道支部商議員会は、必要に応じ細則・内規等を定めることができる。

(管理)

第6条 この資金は、特定費用準備資金として運用する。

2. この資金の管理は支部長が行う。

(積立・取り崩し)

第7条 この資金は、平成28年度に積立てる。

2. この資金は、令和7年度より令和8年度の間に取り崩す。

第8条 この資金は、第3条に規定する事業目的以外には使用しない。やむなく事業目的以外に使用する場合は、北海道支部商議員会の審議を経て、理事会の承認を得なければならない。

(規程制定・変更)

第9条 この規程は、北海道支部商議員会の議決を経て、理事会の承認を得て制定する。

2. この規程は、北海道支部商議員会の議決を経て、理事会の承認を得て変更することができる。

3. 変更後の規程は理事会承認の日から施行する。

附 則 この規程は、平成28年3月15日から施行する。

附 則 この変更規程は、平成31年4月22日から実施する。

附 則 この変更規程は、令和7年2月21日から実施する。

令和6年度地盤工学会北海道支部賞選考経過報告

支部表彰委員会（支部賞、学生部門） （委員五十音順）

委員長 渡部 要一 北海道大学大学院工学研究院土木工学部門教授

副委員長 西本 聡 （国研）土木研究所寒地土木研究所名誉研究監

委員 左近 利秋 （株）ドーコン 環境事業本部地質部次長

〃 武田 宣孝 北海道電力株式会社土木部電源開発グループグループリーダー
（土木エンジニアリンググループグループリーダー兼務）

〃 村木 俊介 鹿島建設株式会社北海道支店土木部プロジェクト推進部長

学生部門選考審査員 （五十音順）

石川 達也 北海道大学大学院工学研究院土木工学部門教授

小野 丘 北海学園大学工学部社会環境工学科教授

川端伸一郎 北海道科学大学工学部都市環境学科教授

木幡 行宏 室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域教授

選考経過

（1）地盤工学会北海道支部賞

令和7年2月12日支部賞選考会議において、支部賞授与規定により審議した結果、次の2編を授賞論文として選考した。

（五十音順）

- ・論文名 廃石膏ボードの地盤材料へのリサイクル方法に関する検討
著者 江本 啓二 萩原建設工業株式会社
- ・論文名 室内における簡易動的コーン貫入試験の原位置試験への適応性及び土質定数との関係
著者 水野 敏裕 益村測量設計株式会社(室蘭工業大学社会人学生)

（2）地盤工学会北海道支部賞(学生部門)

令和7年2月12日支部賞選考会議において、支部賞授与規定により審議した結果、次の4氏の発表について、北海道支部賞(学生部門)を授与することとした。

（五十音順）

- ・氏名 大崎 慈丈 北海道大学
発表論文 異なる層厚において初期応力の深度分布の考え方が粘性を考慮した圧密沈下挙動に与える影響
- ・氏名 小原 拓己 室蘭工業大学
発表論文 道路盛土で用いた泥岩材料の吸水膨張膨潤特性とその評価
- ・氏名 小松 竜大 室蘭工業大学
発表論文 道内火山灰質土からなる斜面の地震時および降雨時の崩壊挙動に関する模型実験
- ・氏名 佐藤 泰地 北海道大学
発表論文 斜面浅層における不飽和浸透流への無限長斜面適用条件の体系化

論文名 廃石膏ボードの地盤材料へのリサイクル方法に関する検討

著者 江本 啓二 高橋 秀彰

受賞者 江本 啓二

選考理由

石膏ボードは建築物の壁や天井材等の内装材料として大量に使用されており、新築及び解体工事の建築現場からは石膏ボードの廃材が発生する。そのうち新築系廃材はリユースが進んでいるが、解体系廃材は一部がセメント用原料や土質改良資材としてリサイクルされているものの、大部分はその他の廃棄物とともに埋め立て処分されている。今後の廃石膏ボード排出量の増大を考えると、最終処分場の確保の問題もあり、廃石膏ボードの再資源化は重要課題である。道内で硫化水素ガス発生により廃石膏ボードの埋め立て処理を停止している処理場もあり、処分先確保はこれまで以上に問題となる可能性もある。

既往研究による廃石膏ボードの地盤材料へのリサイクルに関しては石膏ボード(二水石膏)の改良効果を高めるため焼成処理し半水石膏として利用する例が数多く報告されているが、半水石膏によるリサイクルは焼成処理プラントを必要とすることや原料のバラツキに伴う改質材としての品質管理の難しさ、フッ素溶出の懸念があること等から現状では普及に至っていないものと思われる。

本論文は、これらの問題を解決しリサイクル二水石膏を簡易かつ大量に使用可能な手法として、廃石膏ボードの分別と破砕のみで二水石膏のまま土質改良材として使用することを検討した。半水石膏と比較して改良効果が小さい二水石膏の改良効果を補うためセメントとの二材混合を採用し、アルカリ化による硫化水素やフッ素溶出の低減効果も期待した。

上記の手法の妥当性を検証するための室内、現場配合試験を実施し、セメント単体の改良と比較して、二水石膏との二材混合は攪拌直後のコーン指数改善効果が大きいこと、一軸圧縮試験の28日強度がある程度増加することを確認し、二水石膏は攪拌直後のトラフィカビリティの面でメリットがある材料であることを示した。

また、一定上のセメント量を添加することで硫化水素ガス発生のリスクを無視できるpH=9.5以上の改良土とすることが可能であることを確認したが、フッ素や六価クロム溶出にはバラツキがあり今後、二水石膏添加量上限や使用セメントの検証が必要との課題を示した。

以上のように本論文により検討した廃石膏ボード由来の二水石膏とセメントの二材混合による土質改良手法は、今後発生が増大と処分場のひっ迫が想定される廃石膏ボードの再利用促進に寄与する手法と考えられる。

よって、筆者は地盤工学会北海道支部賞を授与される資格があるものと認める。

論文名 室内における簡易動的コーン貫入試験の原位置試験への適応性及び土質定数との関係

著者 水野 敏裕 川村 志麻 三嶋 信雄 小原 拓己

受賞者 水野 敏裕

選考理由

近年、既設の道路盛土において、豪雨や地震等を起因とした崩落災害が多発している。一般的に、そのような災害を未然に防ぐため、全国に存在する多くの土構造物の健全度を調査する方法として標準貫入試験が多用されているが、この標準貫入試験は比較的長時間と費用を要する。著者らは原位置および室内において、人力でより簡易に実施可能である簡易動的コーン貫入試験に着目し、原位置で求めた簡易動的コーン貫入試験値 N_{df} から直接土構造物の設計に必要な土質定数を求める方法の検討を行っている。過去の一連の研究では、室内において実施された簡易動的コーン貫入試験値 N_{di} と各種力学指標との関係を定式化している。一方、室内で行われる簡易動的コーン貫入試験では試験供試体として用いるモールドの側方拘束の影響を受けるため、それが試験値に及ぼす影響を評価する必要があることが指摘されていた。

本論文では、直径の異なるモールドを用いた室内簡易動的コーン貫入試験を実施し、貫入抵抗値である N_{di} 値と各種力学指標との関係を再整理し、さらにはモールドの側方拘束の影響を明らかにしている。ここでは、地域に依らないように、全国各地 33 箇所から採取した細粒土、砂質土、脆弱岩を用い、各種力学指標値の算定のために、簡易動的コーン貫入試験、室内機械式コーン貫入試験、コーン指数試験、CBR 試験、一軸圧縮試験を実施している。なお、試験間の誤差を極力抑えるため、用いた供試体は試料毎に粒度、密度、含水比を一致させている。得られた結果から、室内簡易動的コーン貫入試験値 N_{di} と各種力学指標値の相関を明らかにし、室内試験における拘束効果の影響を補正する方法を提案した。併せて、提案した関係式で得られた値を、原位置で求めた N_{df} 値と比較することによって検証し、その妥当性を検証した。これによって、原位置試験で求めた N_{df} 値から直接、各種土質定数の推定が可能となることを示した。

以上より本論文は、人力で簡易に実施可能な原位置試験値から直接土構造物の設計に必要な土質定数を求める方法を提案したものであり、土構造物の健全度調査ならびに安定性評価の合理化・精緻化に大きく貢献するものである。

よって、筆者は地盤工学会北海道支部賞を授与される資格があるものと認める。

令和6年度 本部 永年継続会員表彰

次の北海道支部所属会員様に対し、本部表彰の通知がございました。
永年にわたる学会への多大な貢献・ご支援に敬意を表し、深く感謝いたします。

【永年にわたる正会員ご継続への感謝状贈呈】

・五十音順

上野 邦行 殿 高井 紀雄 殿

【特別会員表彰】

・敬称略

「特別会員（25年）再表彰」	4級	株式会社ケイジー技研
「特別会員（35年）再表彰」	4級	會澤高圧コンクリート株式会社
「特別会員（35年）再表彰」	4級	株式会社測機社
「特別会員（50年）再表彰」	4級	株式会社平田建設

地盤工学会活動支援金北海道支部特定寄附者一覧 (北海道支部協賛金)

平成 30 年度まで継続してまいりました支部協賛会制度を終え、これまでご賛助いただいております支部協賛会員の皆様に、「学会活動支援金ご寄附のお願い」をさせていただきましたところ、お陰をもちまして、大変多くの団体様よりご醸金を賜りました。心より感謝申し上げます。つきましては今年度、学会活動支援金(うち北海道支部特定寄附)へご醸金を賜りました皆様のお名前を、ここに掲載し顕彰させていただきます。頂戴しましたご醸金は、「北海道支部協賛金」として無駄なく大切に活用させていただきます。なおこの活動支援寄附金については、今後も引き続きお願いしてまいります。皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和 6 年度寄附累計額：760,000 円 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

・寄附団体一覧(五十音順 敬称略)

令和 7 年 3 月 31 日現在

(株) ア ク ア ジ オ テ ク ノ
 (株) 安 藤 ・ 間 札 幌 支 店
 (株) イ ー エ ス 総 合 研 究 所
 五 十 嵐 建 設 (株)
 伊 藤 組 土 建 設 (株)
 岩 田 地 崎 建 設 (株)
 (株) エ ー テ イ ッ ク
 H R S (株)
 (株) 大 林 組 札 幌 支 店
 岡 三 リ ビ ッ ク (株) 北 海 道 支 店
 小 野 田 ケ ミ コ (株) 札 幌 営 業 所
 (株) 開 発 調 査 研 究 所
 川 崎 地 質 (株) 北 海 道 支 店
 基 礎 地 盤 コ ン サ ル タ ン ツ (株) 北 海 道 支 社
 北 日 本 港 湾 コ ン サ ル タ ン ト (株)
 (株) 構 研 エ ン ジ ニ ア リ ン グ
 五 洋 建 設 (株) 札 幌 支 店
 (株) シ ー ウ ェ イ エ ン ジ ニ ア リ ン グ
 (株) ジ オ テ ッ ク
 清 水 建 設 (株) 北 海 道 支 店
 (株) シ ン 技 術 コ ン サ ル
 (株) J S P 札 幌 営 業 所
 (株) ダ イ イ チ プ ラ ニ ン グ
 大 起 コ ン サ ル タ ン ト (株)
 大 成 建 設 (株) 札 幌 支 店
 大 地 コ ン サ ル タ ン ト (株)
 大 日 本 ダ イ ヤ コ ン サ ル タ ン ト (株) 北 海 道 支 社
 太 平 洋 総 合 コ ン サ ル タ ン ト (株)
 (株) 竹 中 土 木 北 海 道 支 店

(株) 田 中 組
 中 央 開 発 (株) 札 幌 支 店
 (株) ド ー コ ン 地 質 部
 (株) 飛 島 建 設 (株) 札 幌 支 店
 中 村 建 設 (株)
 日 本 工 営 (株) 札 幌 支 店
 日 本 デ ー タ ー サ ー ビ ス (株)
 (株) 橋 本 川 島 コ ー ポ レ ー シ ョ ン
 (株) 平 田 建 設
 (株) 不 動 テ ト ラ 北 海 道 支 店
 北 王 コ ン サ ル タ ン ト (株)
 北 武 コ ン サ ル タ ン ト (株)
 (株) 北 海 道 近 代 設 計
 (株) 北 海 道 技 術 コ ン サ ル タ ン ト
 北 海 道 石 灰 化 工 (株)
 北 海 道 土 質 試 験 協 同 組 合
 北 海 道 土 木 設 計 (株)
 前 田 工 織 (株) 札 幌 支 店
 益 村 測 量 設 計 (株)
 水 元 建 設 (株)
 宮 坂 建 設 工 業 (株)
 村 井 建 設 (株)
 (株) 吉 本 組
 ラ イ ト 工 業 (株) 北 海 道 統 括 支 店

他、団体名を公表しない 3 団体

計 56 団体

地盤工学会北海道支部特別会員名簿

令和7年3月31日現在

1級	岩田地崎建設(株)	(株)ソイルラボ北海道
2級	(株)大林組札幌支店	(株)測機社
	鹿島建設(株)北海道支店	道路工業(株)
	清水建設(株)北海道支店	トキワ地研(株)
	大成建設(株)札幌支店	(株)道北開発試験センター
	(株)ドーコン	西松建設(株)札幌支店
3級	(株)安藤・間札幌支店	ニチゴ産業(株)
	岩倉建設(株)	日特建設(株)札幌支店
	基礎地盤コンサルタンツ(株)北海道支社	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道
	北海道電力(株)	(株)農土コンサル
	北海道旅客鉄道(株)	パシフィックコンサルタンツ(株)北海道支社
4級	會澤高圧コンクリート(株)	東日本高速道路(株)北海道支社
	アースコンサルタント(株)	(株)平田建設
	(株)アルト技研	ヒロセ補強土(株)札幌営業所
	荒井建設(株)	(株)不動テトラ北海道支店
	(株)イーエス総合研究所	北電総合設計(株)
	伊藤組土建(株)	(株)北開水工コンサルタント
	上山試錐工業(株)	(株)北海道宇部
	エスエスコンサル(株)	北海道開発局小樽開発建設部小樽道路事務所
	応用地質(株)北海道事務所	北海道開発局帯広開発建設部帯広道路事務所
	岡本興業(株)	一般社団法人北海道開発技術センター
	(株)開発工営社	一般財団法人北海道河川財団
	一般社団法人寒地港湾空港技術研究センター	一般財団法人北海道建設技術センター
	北日本港湾コンサルタント(株)	(株)北海道ソイルリサーチ
	(株)ケイジー技研	北海道士質コンサルタント(株)
	(株)構研エンジニアリング	北海道士質試験協同組合
	根釧土質管理(株)	北海道道路エンジニアリング(株)
	札幌建工業(株)	北海道士木技術会土質基礎研究委員会
	(有)札幌土質試験	北海道大学大学院工学研究院土木学部門地盤物性学研究室
	三和土質基礎(株)	北海道大学大学院工学研究院土木学部門地盤環境解析学研究室
	(株)シー・イー・サービス	室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域地盤工学研究室
	ジーエムラボ(株)	明治コンサルタント(株)北海道技術部
	(株)ブローシャ総合科学研究所地質調査室	(株)ユニオン・コンサルタント

以上 66 団体

平成22年4月26日制定
平成28年4月22日一部改正
平成31年4月22日一部改正
令和6年4月19日一部改正

公益
社団
法人 地盤工学会北海道支部規程

第1章 総 則

(支部の名称及び所在地)

第1条 公益社団法人地盤工学会（以下「学会」という。）定款第3条に基づき北海道地区に支部を設け、公益社団法人地盤工学会北海道支部（以下「支部」という。）といい、事務局を札幌市に置く。

(支部規程の制定)

第2条 支部の運営に関しては、学会規則（以下「規則」という。）第52条の規定により、学会定款（以下「定款」という。）及び規則に定めるもののほか、この規程に定めるところによる。

(支部区域)

第3条 支部は、規則第44条に示す北海道地区在住の会員をもって組織する。

(事業)

第4条 支部は、規則第46条に定める範囲において、定款第5条に定める事業のうち、支部に関する事業を行う。

第2章 支部役員

(支部役員)

第5条 支部に、次の支部役員を置く。

支 部 長	1 名
副 支 部 長	2 名
商 議 員	40名以内
支 部 監 事	2 名
幹 事 長	1 名
副 幹 事 長	1 名
幹 事	35名以内

2 支部に顧問および参与を置くことができる。

(支部役員の仕事)

第6条 支部長は、支部を代表し、その会務を総理する。

2 副支部長は、支部長を補佐し、支部長が事故ある時には、その職務を代行する。

3 商議員は、支部に関する重要事項を審議する。

4 支部監事は、支部の会計及び支部役員の業務執行状況等を監査する。

5 幹事は、支部に関する事務を処理し、幹事長はこれを総括する。

6 副幹事長は、幹事長を補佐し、必要に応じて幹事長の職務を代行する。

7 顧問および参与は、支部役員の諮問に応じる。

(支部役員の選任)

第7条 支部役員は、商議員会が支部内の正会員のうちから推薦し、支部総会の決議によって選任する。そのうち、支部長については、正会員から選任しなければならないが、その余の者は特段の事情があれば正会員以外から選任することができる。

2 支部役員が任期中に欠けたときは、次期定例支部総会までの残任期間中に限り、欠員としてその後任者を商議員会において選任することができる。

(支部役員の任期)

第8条 支部役員の任期は1年とする。ただし、支部役員は再任を妨げない。

- 2 前項の任期1年とは、定例支部総会から翌年の定例支部総会終結時までとする。
- 3 欠員として選任された支部役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 支部役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

(支部役員の所属)

第9条 支部役員は、所属支部を変えたとき直ちに支部長に報告し、その任を辞さなければならない。

(支部役員の解任)

第10条 支部役員は、支部総会の決議によって解任することができる。

(支部役員の報酬)

第11条 支部役員は、無報酬とする。

第3章 支部代議員

(支部代議員候補者の選考)

第12条 支部は、定款第7条及び代議員選挙規則により、支部代議員候補者の選考を行う。

- 2 支部代議員候補者は、商議員会にて選考する。

第4章 会 議

(会議)

第13条 支部の会議は、支部総会、商議員会、幹事会及び支部委員会とする。

(支部総会)

第14条 支部総会は、規則第47条の規定により、支部に所属する会員をもって構成する。

- 2 支部長は、毎事業年度終了後1ヶ月以内に定例支部総会を招集する。また、必要に応じて臨時支部総会を招集する。
- 3 支部総会の議長は、支部長がこれに当たる。
- 4 支部総会は、支部に所属するすべての会員の委任状を含む20分の1以上の出席をもって成立する。
- 5 支部総会は、次の事項について決議する。ただし、支部総会の議事は、予め商議員会の承認を必要とする。
 - (1) 支部役員の選任または解任
 - (2) 支部役員の報酬等の額またはその規定
 - (3) 事業報告及び決算報告の承認
 - (4) 支部規程その他の規程の変更
 - (5) その他、商議員会で認めた事項
- 6 委任状は、当該議事につき、書面もしくは電磁的記録をもって、支部総会における他の構成員に委任をし、または予め示された議案の賛否についての意思表示をすることができる。この場合はその者は出席者とみなす。
- 7 支部総会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数のときは議長の決定による。ただし、支部規程の変更に関しては、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

(商議員会)

第15条 商議員会は、商議員をはじめ支部長、副支部長で構成し、議長は支部長がこれに当たる。

- 2 商議員会のうち、1回は毎事業年度開始1ヶ月前までに支部長が招集する。ただし、支部長が必要と認めた場合には、招集しなければならない。
- 3 商議員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 事業報告及び決算
 - (2) 事業計画及び予算
 - (3) 規程等の制定及び変更
 - (4) 第7条に基づく支部役員の推薦または選出
 - (5) その他、会務運営上の事項
- 4 商議員会は、商議員の委任状を含む過半数の出席をもって成立する。
- 5 委任状は、当該議事につき、書面もしくは電磁的記録をもって、商議員会における他の構成員に委任をし、または予め示された議案の賛否についての意思表示をすることができる。この場合はその者は出席者とみなす。
- 6 商議員会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数のときは議長の決定による。
- 7 幹事長、副幹事長、顧問、参与は商議員会に出席して意見をのべることができる。

(幹事会)

- 第 16 条 幹事会は、幹事長、副幹事長及び幹事をもって構成し、議長は幹事長がこれに当たる。
2 幹事会は、年 2 回程度開催し、幹事長が招集する。
3 幹事会は、商議員会に付議する事業計画、その他会務運営等に関する事項を策定する。

(支部委員会)

- 第 17 条 支部長は、調査・研究のために必要があるときは、支部委員会を設置することができる。

第 5 章 会 計

(支部の事業年度)

- 第 18 条 定款第 43 条に基づき、支部の事業年度は、毎年 4 月 1 日より始まり翌年 3 月 31 日に終る。

(支部の経費)

- 第 19 条 規則第 51 条に基づき、支部の経費は、交付金、寄付金及びその他の収入をもってあてらる。

(支部の事業計画及び収支予算)

- 第 20 条 支部の事業計画及び収支予算は、毎事業年度開始 1 ヶ月前までに商議員会が議決し、支部長は直ちに会長に届出て、理事会の承認を得なければならない。
2 支部長は、理事会が承認した事業計画及び収支予算を定例支部総会に報告しなければならない。

(支部の事業報告及び収支決算)

- 第 21 条 支部の事業報告及び収支決算は、毎事業年度終了後、支部監事の監査を受けた上で、商議員会の議決を経て定例支部総会の承認を受けなければならない。
2 支部長は、毎事業年度終了後 1 ヶ月以内に事業報告及び収支決算報告を会長に届出て、理事会の決議を経て総会の承認を得なければならない。

第 6 章 支部表彰

- 第 22 条 別に定める支部表彰規程に基づき表彰を行うことができる。

第 7 章 支部規程の改廃

- 第 23 条 この規程を改廃しようとするときは、商議員会の議決を経て、支部総会の承認を得なければならない。
2 支部長は、この規程の変更を行う場合、予め理事会の承認を得なければならない。

第 8 章 内規の作成

- 第 24 条 支部長は商議員会の議決を経て会務運営上必要な事項に関する内規を作成することができる。

付 則 この規程は、社団法人地盤工学会が公益社団法人の設立の登記の日から施行する。

付 則 この変更規程は、平成 28 年 4 月 22 日から施行する。

付 則 この変更規程は、平成 31 年 4 月 22 日から施行する。

付 則 この変更規程は、令和 6 年 4 月 19 日から施行する。

地盤工学会北海道支部賞授与規定

(趣 旨)

第 1 条 地盤工学会北海道支部賞（以下「支部賞」という）の授与はこの規程による。

(受賞者の選考)

第 2 条 受賞者は、地盤工学会北海道支部（以下「支部」という）所属の会員で、地盤工学会北海道支部賞選考委員会（以下「選考委員会」という）において選考する。

(支部賞の対象)

第 3 条 支部賞は、支部発行の「技術報告集」に掲載された研究、調査、計画、設計、施工、考案などの報告業績で、地盤工学に関する学術および技術の進歩発展に寄与すると認められるものの中から選ぶものとする。

(選考委員会)

第 4 条 選考委員会は、委員 3 人以上をもって構成する。

2 委員は、支部所属の会員の中から支部長が委嘱し、その任期は 1 年とする。

3 選考委員会に委員長をおく。

4 委員長は委員が互選する。

(授与の時期・方法)

第 5 条 受賞者には、支部通常総会において、賞状および副賞を授与する。

(付 則)

第 6 条 本規定は、昭和42年度より施行する。

地盤工学会北海道支部賞選考要領

2019. 2. 12 一部改正

1. 北海道支部賞は、以下の3つの賞からなるものとする。
 - ・支部賞
 - ・支部賞（学生部門）
 - ・支部特別表彰
2. 支部賞については、以下の通りとする。
 - ・本賞の性格は奨励賞と考える。
 - ・受賞候補者は、支部所属の正会員（国際会員を含む）および学生会員で、かつ新進の人を対象とする。新進の人の判定は、選考委員会において行う。この際の年齢は問題としない。
 - ・共同研究者のうち、1人がエキスパートであっても、直接の担当者が新進の人であることが明らかであれば、この人を対象としてその論文に支部賞を授与する。
 - ・直接の担当者の判断は、共同研究者のうちの受賞対象外となるエキスパートの意見を聞いて行う。
 - ・エキスパートの考え方は、選考委員の良識と社会通念に基づいて判断する。
3. 支部賞（学生部門）については、以下の通りとする。
 - ・受賞候補者は、支部所属の学生会員とする。
 - ・研究の内容を評価するとともに、質疑応答時のプレゼンテーション力についても積極的に評価する。
 - ・支部通常総会に出席することが困難と判断される場合は、繰り上げて授与を行うことができることとする。
4. 支部特別表彰については、以下の通りとする。
 - ・本賞の性格は地盤工学に関する学術および技術の進歩発展に寄与する貢献賞と考える。
 - ・受賞候補者は、支部所属の正会員（国際会員を含む）で、かつエキスパートの発表者を対象とする。エキスパートの人の判定は、選考委員会において行う。この際の年齢は問題としない。
 - ・エキスパートの考え方は、選考委員の良識と社会通念に基づいて判断する。
 - ・支部特別表彰については、支部総会での特別講演時の旅費の支給をもって、その副賞とする。ただし、旅費支給が不要の場合、受賞者が副賞授与を辞退したとみなす。
5. 支部賞選考の具体的方法は、第1次選考を行ったのち、これを参考として、第2次選考によって受賞者を決定するものとする。
6. 第1次選考は発表後すみやかに（1週間以内を原則とする）行う。その方法は、選考委員会委員が、発表論文中から5編を選考し、これにA・B・C・D・Eの順位を付して無記名投票で行う。第1次選考に際しては、学術的なものと技術的なものとの区別をしない。
7. 第2次選考は、第1次選考後すみやかに（1週間以内を原則とする）選考委員会を開いて行う。この際の、研究機関と現場機関の区別をしないのを原則とするが、奨励の意味から、なるべく現場機関にある人に注意を払う。

8. 支部賞（学生部門）第1次選考は、以下の通りとする。
- ・選考委員会委員に加え、北海道支部内の各大学・高専の教授（辞退者、当日の発表を聴講できない人は除く）が、発表論文中から5編を選考し、これにA・B・C・D・Eの順位を付して無記名投票で行う。ただし、自身が連名者である論文については審査対象から除外する。
 - ・採点結果は、（合計点／審査者数）で評価する。
- 支部賞（学生部門）第2次選考の具体的方法については、支部賞の方法に準拠する。
9. 支部特別表彰選考の具体的方法は、選考委員会における選考委員会委員の発議を受け審議し、選考委員会委員の全員の賛同をもって、受賞者を決定するものとする。

地盤工学会北海道支部協賛金制度

(目 的)

地盤工学会北海道支部は、地盤工学の振興と社会の発展に寄与することを目的とする。

この目的を北海道において実現するため、支部活動の発展を期し、次により支部協賛金制度を設ける。

(協 賛 金)

- 1 北海道支部協賛金とは、支部事業増進の目的に賛同し、支部の活動を支えるための寄附金であり、地盤工学会 寄附金品受け入れ規程第3条(2)ハ 支部特定寄附金に定めるものである。
- 2 北海道支部協賛金拠出者は、当該年度において、支部の各種行事への参加・刊行物の購入等に対して寄附金額に応じた優遇措置を受けることができる。

北海道支部歴代支部長・副支部長・幹事長・副幹事長名簿

年度	支部長	副支部長	幹事長
昭和31	真井耕象（北大）		当銀清一（国鉄）
32	岩本常次（北電）		大橋康次（北電）
33	三丁目喜一郎（道）		入江但（道）
34	猪瀬寧雄（開発局）		古谷浩三（土試）
35	赤井醇（札幌市）		岡田光夫（札幌市）
36	酒井忠明（北大）		土屋忠（日本舗装）
37	高橋憲治（国鉄）		石下力也（国鉄）
38	大橋康次（北電）		相馬勇喜（北電）
39	高瀬正（道）		平岡義孝（道）
40	板倉忠三（北大）		岡田光夫（札幌市）
41	小竹豊（国鉄） （長谷川 亘）（"）		滝淵清美（国鉄）
42	遊佐志治磨（開発局）		河野文弘（土試）
43	横道英雄（北大）		藤田嘉夫（北大）
44	小寺一阜（道）		本間四郎（道）
45	小池龍夫（北電）		秋谷元（北電）
46	伊福部宗夫（北海学園大）		北郷繁（北大）
47	岡田光夫（札幌市）		岡本成之（札幌市）
48	山田照一（国鉄） （末村三郎）（"）		山本強（国鉄）
49	尾崎晃（北大）		芳村仁（北大）
50	秋谷元（北電）		関口光永（北電）
51	小野中（道）		村田孝雄（道）
52	国本康夫（札幌市）		野島廣紀（札幌市）
53	大越孝雄（開発局）		高田和夫（開発局）
54	北郷繁（北大）		坂上孝幸（北海学園大）
55	向井軍治（国鉄） （佐々木直樹）（"）		吉田浩一（国鉄）
56	石崎嘉明（北電）		黒田充（北電）
57	村田孝雄（道）		大屋光雄（道）
58	岡本成之（札幌市）		野島廣紀（札幌市）
59	真田真（開発局）		久保宏（土試）
60	黒田充（北電）		小山田博（北電）
61	河野文弘（北海学園大）		土岐祥介（北大）
62	金谷重亮（道路公団） （佐藤良助）（"）		渡辺喬二（道路公団） （土屋雄治）（"） （小野寺 衛）（"）
63	佐藤嘉晃（鉄建公団） （美藤恭久）（"）		高木憲治（J R） 小林徳宏（"）

北海道支部歴代支部長・副支部長・幹事長・副幹事長名簿

年度	支部長	副支部長	幹事長
平成元	伊藤 蔵吉 (道)	野島 廣紀 (札幌市)	鶴 束 淑 朗 (道)
2	魚住 昌也 (札幌市)	小林 治郎 (清水建設) 高橋 陽一 (開発局)	櫻田 充郎 (札幌市)
3	戸部 智弘 (開発局)	土肥 稔 (大成建設)	新山 惇 (開発局)
4	織田 紀雄 (北電)	谷藤 和三 (北電) 神部 寿行 (鹿島建設)	谷藤 和三 (北電)
5	坂上 孝幸 (北海学園大)	三田地 利之 (北大) 神部 寿行 (鹿島建設)	三田地 利之 (北大)
6	川瀬 昌万 (道路公団)	浜田 義継 (道路公団) 加藤 讓嗣 (大林組)	小野 正二 (道路公団)
7	小山田欣裕 (道路管理技術センター)	能登 繁幸 (開発局) 加藤 讓嗣 (大林組)	能登 繁幸 (開発局)
8	土岐 祥介 (北大)	鈴木 輝之 (北見工大) 金井 拓一郎 (大成建設)	鈴木 輝之 (北見工大)
9	尾形 浩 (道)	長尾 博志 (道) 金井 拓一郎 (大成建設)	菅原 久広 (道)
10	古田 政美 (道コン)	古田 政美 (道コン) 奥野 隆夫 (鹿島建設)	武田 覚 (道コン)
11	久保 宏 (北海学園大)	久保 宏 (北海学園大) 奥野 隆夫 (鹿島建設)	神谷 光彦 (道工大)
12	能登 繁幸 (道路管理技術センター)	能登 繁幸 (開発局) 八戸 裕 (大林組)	西川 純一 (開発局)
13	八戸 裕 (大林組)	八戸 裕 (大林組) 鈴木 輝之 (北見工大)	下倉 宏 (日本工営)
14	鈴木 輝之 (北見工大)	神谷 光彦 (道工大) 鈴木 輝之 (北見工大)	小野 丘 (北海学園大)
15	神谷 光彦 (道工大)	西川 純一 (開土研) 武田 覚 (ドーコン)	山下 聡 (北見工大)
16	佐野 侖房 (函館高専)	高橋 耕平 (北電)	林 宏親 (開土研)
17	三田地 利之 (北大)	三浦 清一 (北大) 坂本 容 (北電)	木幡 行宏 (室蘭工大)
18	西川 純一 (寒地土研)	一 條 昌 幸 (J R) 一 條 昌 幸 (J R)	西本 聡 (寒地土研)
19	三浦 清一 (北大)	武田 覚 (ドーコン) 一 條 昌 幸 (J R)	峯田 一彦 (ドーコン)
		武田 覚 (ドーコン)	

北海道支部歴代支部長・副支部長・幹事長・副幹事長名簿

年度	支部長	副支部長	幹事長	副幹事長
20	武田 覚 (ドーコン)	一條 昌幸 (J R)	石川 達也 (北大)	
		西本 聡 (寒地土研)		
21	一條 昌幸 (J R)	西本 聡 (寒地土研)	廣長 周治 (大林組)	
		徳長 政光 (道)		
22	徳長 政光 (道)	峯田 一彦 (ドーコン)	川村 志麻 (室蘭工大)	
		田中 洋行 (北大)		
23	木下 勲 (鹿島建設)	峯田 一彦 (ドーコン)	八 鍬 昇 (鹿島建設)	
		富樫 泰治 (北電)		
24	富樫 泰治 (北電)	木幡 行宏 (室蘭工大)	田中 則和 (北電)	
		廣長 周治 (大林組)		
25	峯田 一彦 (ドーコン)	木幡 行宏 (室蘭工大)	川端 伸一郎 (科学大)	
		廣長 周治 (大林組)		
26	西本 聡 (寒地土研)	木幡 行宏 (室蘭工大)	山梨 高裕 (寒地土研)	
		八 鍬 昇 (鹿島建設)		
27	田中 洋行 (北大)	山下 聡 (北見工大)	川口 貴之 (北見工大)	
		八 鍬 昇 (鹿島建設)		
28	小野 丘 (北海学園大)	山下 聡 (北見工大)	中村 努 (苫小牧高専)	佐藤 厚子 (寒地土研)
		廣長 周治 (大林組)		
29	廣長 周治 (大林組)	石川 達也 (北大)	佐藤 厚子 (寒地土研)	西村 聡 (北大)
		北谷 啓幸 (道)		
30	天野 俊哉 (道)	石川 達也 (北大)	西村 聡 (北大)	工藤 正彦 (北電)
		藪 正樹 (北電)		
令和元	木幡 行宏 (室蘭工大)	川端 伸一郎 (科学大)	左近 利秋 (ドーコン)	工藤 正彦 (北電)
		藪 正樹 (北電)		
2	藪 正樹 (北電)	川端 伸一郎 (科学大)	工藤 正彦 (北電)	横浜 勝司 (北大)
		林 宏親 (寒地土研)		
3	山下 聡 (北見工大)	川端 伸一郎 (科学大)	横浜 勝司 (北大)	川村 力 (J R)
		林 宏親 (寒地土研)		
4	進藤 州弘 (J R) (島村 昭志 (J R))	川村 志麻 (室蘭工大)	川村 力 (J R)	橋本 聖 (寒地土研)
		林 宏親 (寒地土研)		
5	林 宏親 (寒地土研)	川村 志麻 (室蘭工大)	橋本 聖 (寒地土研)	磯部 公一 (北大)
		山本 徹 (鹿島建設)		
6	石川 達也 (北大)	左近 利秋 (ドーコン)	磯部 公一 (北大)	村木 俊介 (鹿島建設)
		奥村 一正 (鹿島建設)		

令和6年度地盤工学会北海道支部役員

(支部長・副支部長・商議員・監事)

支部長	石川 達也	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門教授
副支部長	奥村 一正	鹿島建設(株)執行役員北海道支店長
副支部長	左近 利秋	(株)ドーコン環境事業本部地質部次長
商議員	長澤 正明	清水建設(株)北海道支店土木技術部部長
〃	河村 成範	大成建設(株)札幌支店土木部安全環境推進室長
〃	甲斐 賢一	(株)安藤・間札幌支店副支店長兼土木部長
〃	梅津 智徳	西松建設(株)札幌支店土木工事部部長
〃	北見 実敏	伊藤組土建(株)技術部参事・部長
〃	八木 一善	岩田地崎建設(株)技術部担当部長
〃	高島 信一	荒井建設(株)札幌支店土木営業部部長
〃	吉田 考一	北電総合設計(株)土木部土木部長
〃	市川 克己	北日本港湾コンサルタント(株)第2技術部部長
〃	工藤 康雅	北海道土質コンサルタント(株)取締役統括技師長
〃	松本 博志	トキワ地研(株)技術本部調査計画次長
〃	武田 宣孝	北海道電力(株)土木部電源開発グループ 兼土木エンジニアリンググループグループリーダー
(〃	工藤 正彦	北海道電力(株)水力部部長)
〃	海原 卓也	北海道旅客鉄道(株)鉄道事業本部工務部副部長(兼)工事課長
〃	木村 泰	東日本高速道路(株)北海道支社技術部部長
〃	廣瀬 亘	北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所主査
〃	渡部 要一	北海道大学大学院工学研究院土木工学部門教授
〃	井上 京	北海道大学大学院農学研究院教授
〃	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域教授
〃	山下 聡	北見工業大学工学部社会環境系教授
〃	宗岡 寿美	帯広畜産大学環境農学研究部門教授
〃	小野 丘	北海学園大学工学部社会環境工学科教授
〃	川端伸一郎	北海道科学大学工学部都市環境学科教授
〃	巖倉 啓子	北海道開発局建設部河川工事課長
〃	中島 州一	北海道開発局建設部道路建設課長
〃	星 道太	北海道開発局港湾空港部港湾建設課長
(〃	櫻井 義夫	北海道開発局港湾空港部港湾建設課長)
〃	斎藤 大作	北海道開発局農業水産部農業設計課長
〃	木下 堅吾	北海道開発局営繕部営繕整備課長
〃	林 宏親	土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム主任研究員
〃	齊藤 寛朗	北海道建設部土木局河川砂防課砂防災害担当課長
〃	佐々木 悟	北海道農政部農村振興局事業調整課技術管理担当課長
〃	浜岸 俊也	札幌市建設局土木部道路工事担当部長
〃	都築 一雪	札幌市都市局建築部長
〃	菊池 俊貴	札幌市下水道河川局事業推進部管路担当部長
〃	内田 雅洋	鉄道建設・運輸施設整備支援機構北海道新幹線建設局計画部長

支部監事 佐藤 厚子 土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム特任研究員
 " 白旗 秀紀 (株)大林組札幌支店土木工事部部长

(幹事長・副幹事長・幹事)

幹事長 磯部 公一 北海道大学大学院工学研究院土木工学部門准教授
 副幹事長 村木 俊介 鹿島建設(株)北海道支店土木部プロジェクト推進部長
 幹事 向井 昭弘 鹿島建設(株)北海道支店土木部工事管理グループ
 " 塩見 武 (株)大林組札幌支店営業第二部
 " 石橋 正弘 清水建設(株)北海道支店営業部
 " 大田 佳紀 大成建設(株)札幌支店土木部技術室
 " 朝賀晃二郎 飛島建設(株)札幌支店土木営業部
 " 吉村 浩 五洋建設(株)札幌支店
 " 橋本 和明 日本工営(株)札幌支店技術第二部
 " 海部 友和 (株)構研エンジニアリング地質部
 " 小林 修司 (株)ドーコン環境事業本部地質部
 " 宮田 善郁 (株)ドーコン交通事業本部防災保全部
 " 本多 俊司 (株)北海工営社
 " 太田 佳之 北海道士質コンサルタント(株)技術部
 " 藤崎 浩孝 (株)ズコーシャ技術部地質調査課
 " 大熊 浩明 (株)開発工営社共通事業本部地質部
 " 京田 英宏 北武コンサルタント(株)構造部
 " 服部 直 北海道電力(株)土木部地盤・津波グループ
 " 渡辺 一功 北海道旅客鉄道(株)鉄道事業本部工務部工事課
 " 坂田 史典 東日本高速道路(株)北海道支社技術部技術企画課
 (" 栗田 裕樹 東日本高速道路(株)北海道支社技術部技術企画課)
 " 江川 拓也 土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム
 " 御厩敷公平 土木研究所寒地土木研究所寒地地盤チーム
 " 西村 聡 北海道大学大学院公共政策学連携研究部
 " 横浜 勝司 北海道大学大学院工学研究院土木工学部門
 " 福田 文彦 北海道大学大学院工学研究院土木工学部門
 " 永井 宏 室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域
 " 中村 大 北見工業大学工学部社会環境系
 " 松田 圭大 北海道科学大学工学部都市環境学科
 " 所 哲也 北海学園大学工学部社会環境工学科
 " 加藤 晃 苫小牧工業高等専門学校創造工学科
 " 菅野 圭一 北海道開発局建設部道路建設課
 " 高橋 靖 北海道建設部土木局河川砂防課

令和6年度 地盤工学会北海道支部委員会

【北海道支部表彰委員会】

(令和7年3月31日現在)

役職	氏名	所属
委員長	渡部 要一	北海道大学大学院
副委員長	西本 聡	(国研) 土木研究所寒地土木研究所名誉研究監
委員	左近 利秋	(株)ドーコン
委員	武田 宣孝	北海道電力(株)
委員	村木 俊介	鹿島建設(株)北海道支店

【北海道支部地盤災害緊急対応委員会】

役職	氏名	所属
委員長	石川 達也	北海道大学大学院
副委員長	渡部 要一	北海道大学大学院
委員	磯部 公一	北海道大学大学院
委員	海原 卓也	北海道旅客鉄道(株)
委員	奥村 一正	鹿島建設(株)北海道支店
委員	計良 清隆	東日本高速道路(株)北海道支社
委員	小玉 齋明	函館工業高等専門学校
委員	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院
委員	左近 利秋	(株)ドーコン
委員	中村 努	苫小牧工業高等専門学校
委員	松村 瑞哉	北海道電力(株)
委員	宗岡 寿美	帯広畜産大学
委員	村木 俊介	鹿島建設(株)北海道支店
委員	山木 正彦	(国研) 土木研究所寒地土木研究所
委員	山下 聡	北見工業大学工学部

【積雪寒冷地における土構造物の設計と施工に関する研究委員会】

役職	氏名	所属
委員長	川口 貴之	北見工業大学工学部
幹事	菅原 正則	(株)構研エンジニアリング
幹事	松田 圭大	北海道科学大学工学部
委員	所 哲也	北海学園大学工学部
委員	御厩敷公平	(国研) 土木研究所寒地土木研究所
委員	橋本 聖	(国研) 土木研究所寒地土木研究所
委員	上野 千草	(国研) 土木研究所寒地土木研究所
委員	岡本 拓	東日本高速道路(株)北海道支社
委員	山内 智	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道旭川道路事務所
委員	島崎 将司	(株)ドーコン
委員	高橋 慶行	(株)開発工営社
委員	平岡 城栄	明治コンサルタント(株)
委員	小松 弘樹	宮坂建設工業(株)
委員	平 伸明	北海道土質試験協同組合
委員	木村 壮一	岡三リビング(株)北海道支店
委員	中澤 直樹	カネカケンテック(株)
委員	岸田 久徳	ライト工業(株)北海道統括支店
委員	原田 道幸	東京インキ(株)
委員	平島 博樹	(株)砂子組
委員	飛弾野大介	荒井建設(株)
委員	筒井 秀和	(株)アサヒ建設コンサルタント
委員	松浦 綾乃	(株)ジオテック
委員	澤田 寛和	坂野建設(株)
委員	橋本 勲	堀松建設工業(株)
委員	長谷川朋毅	(株)丸田組
オブザーバー	中村 大	北見工業大学工学部

【会員拡大検討委員会】

役職	氏名	所属
委員長	川端伸一郎	北海道科学大学工学部
幹事委員	磯部 公一	北海道大学大学院
副幹事委員	村木 俊介	鹿島建設(株)北海道支店
委員	大熊 浩明	(株)開発工営社
委員	所 哲也	北海学園大学工学部
委員	松田 圭大	北海道科学大学工学部
委員	横浜 勝司	北海道大学大学院

令和6年度 本部役員・委員等(北海道支部推薦・選出分)

(令和7年3月31日現在)

総務部関連

会員名 委員会・部会等任務

磯部 公一	代議員	
木幡 行広	代議員	
左近 利秋	代議員	
西本 聡	代議員	
山下 聡	代議員	
石川 達也	災害連絡会議	地方委員 (北海道)
山下 聡	災害連絡会議	地方連絡委員 (上川・網走地方)
宗岡 寿美	災害連絡会議	地方連絡委員 (十勝・根釧地方)
石川 達也	災害連絡会議	地方連絡委員 (道央・道北地方)
中村 努	災害連絡会議	地方連絡委員 (日高地方)
木幡 行宏	災害連絡会議	地方連絡委員 (胆振・後志地方)
小玉 齊明	災害連絡会議	地方連絡委員 (渡島・桧山地方)

公益出版部関連

会員名 委員会・部会等任務

松田 圭大	地盤工学会誌編集委員会	委員
加藤 晃	地盤工学会誌読者モニター	
川村季実佳	地盤工学会誌読者モニター	
熊谷 大輔	地盤工学会誌読者モニター	